

広場の大きなかさ

住民が集う環となり、活動に出会う場

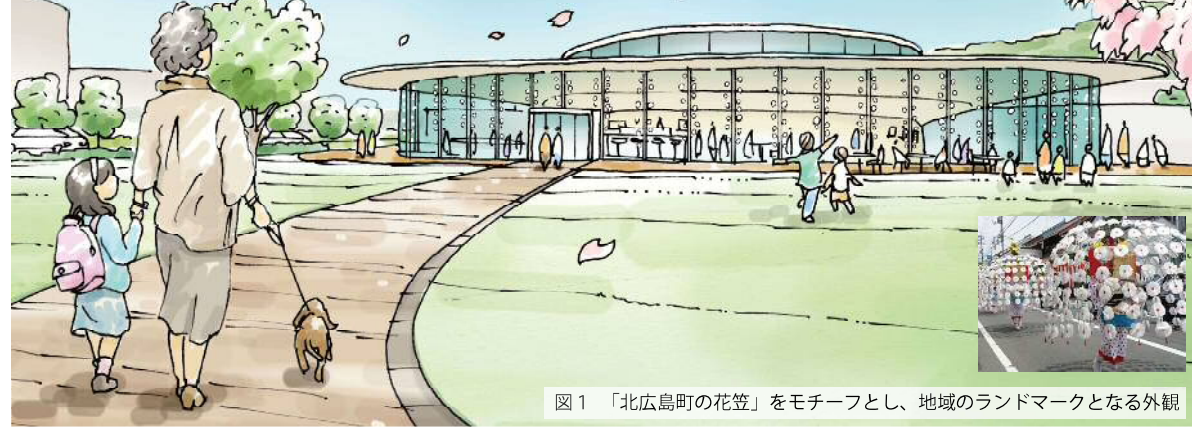


図1 「北広島町の花笠」をモチーフとし、地域のランドマークとなる外観

1. 広場の中に「大きなかさ」のような建築をつくります
2. 広場と一体となった「大きなかさ」は誰もが気軽に利用できます
3. 「大きなかさ」の下は、憩い・学習・活動が共存する広い交流空間です



広場と一体となる「大きなかさ」のイメージ



図2 多様な活動や出会いが生まれる「大きなかさ」の内部の様子

【テーマ1】誰もが気軽に自由に集い交わる場について

利用しやすいサークル状の平面計画



図3 配置図兼1階平面図

●安心して利用できる歩行者ゾーン

安全で快適な広場空間となるよう、駐車場は東側の行政施設ゾーンの駐車場とまとめて配置し、歩車分離を行います。

●サークル状の平屋建ての建築物

サークル状の平屋建てとし、東西南北からアクセスできる計画により、誰もが気軽に利用できるよう配慮します。

●出会いが生まれる用途が複合された多目的スペース

コアゾーン（広場）に対する眺望を確保した多目的スペースは、休憩機能・図書機能・まちづくり活動機能を複合することにより、交流が生まれる空間となります。

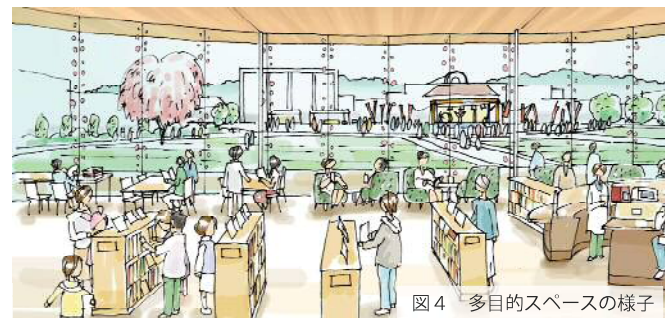


図4 多目的スペースの様子

【テーマ2】生涯にわたって様々な学習の機会が得られる場について

多様な学習の場が生まれるフレキシブルな施設

●世代を問わず、共有できる開放的な図書・閲覧機能

図書・閲覧機能はラウンジと一体的な空間とし、多様な世代の住民が、自主的な学習を行えるように計画します。

●フレキシブルに使える多様な「きたひろホール」

きたひろホールは多様な利用形態を考慮し、移動間仕切りで2～4室分割できるように整備します。



図5 きたひろホールの利用パターン

【テーマ3】交流ネットワークが形成できる場について

人と人のつながりが生まれる回遊動線

●交流や活動への参加を促す「見る・見られる」の関係

中央のループ状の回遊動線は、住民の活動や成果に出会える空間です。多目的室や生涯学習室は回遊動線から内部を見通せるようにガラス間仕切りとし、活動に対する好奇心を誘発し、交流や参加を促進します。

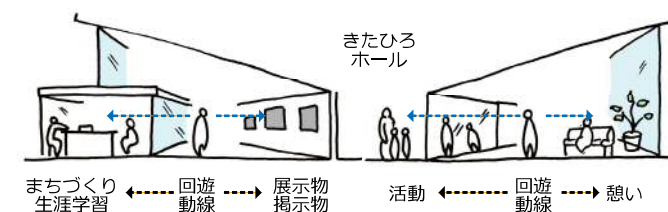
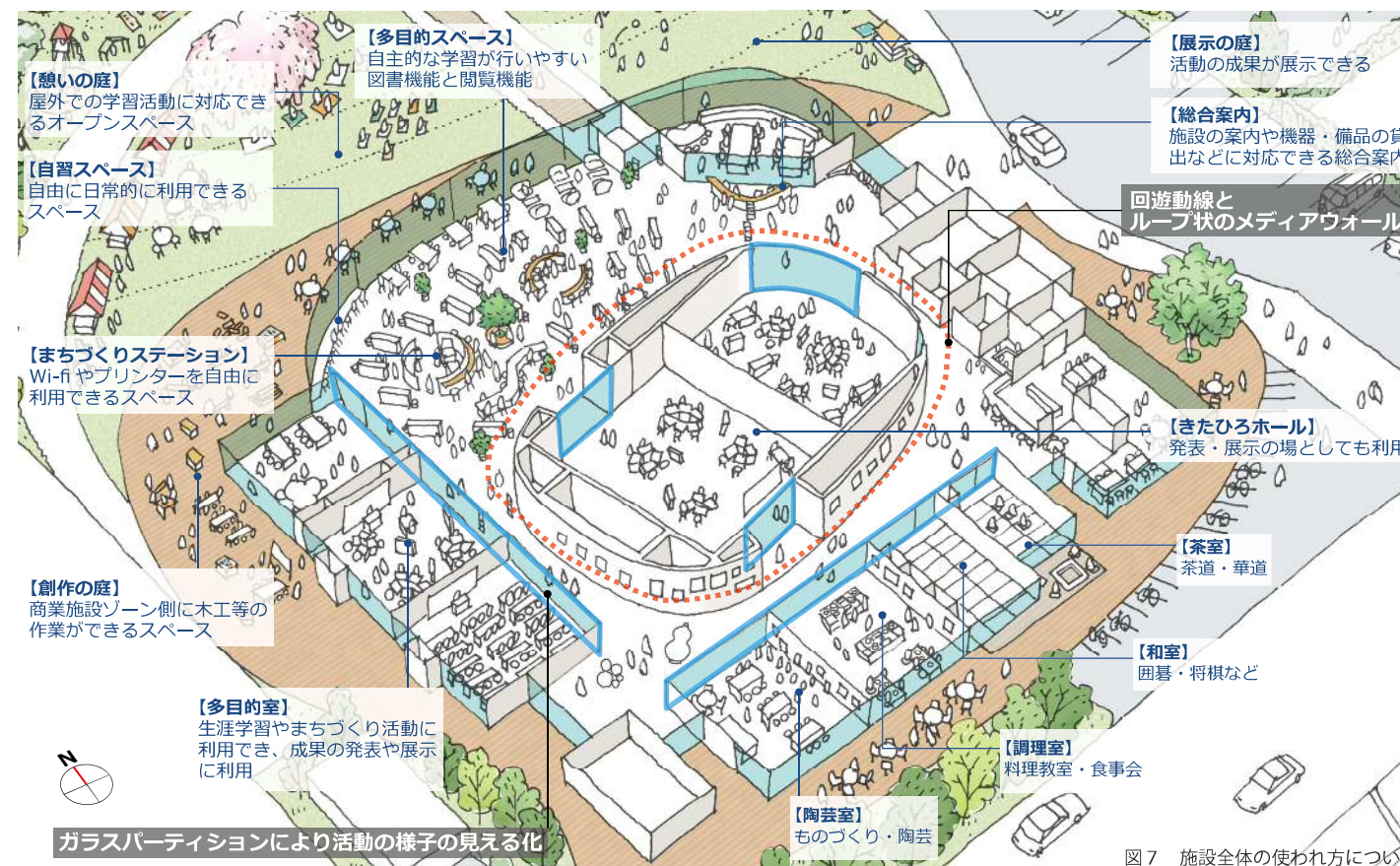


図6 内と外に広がる交流ネットワークのイメージ



ガラスパーティションにより活動の様子の見える化

図7 施設全体の使われ方について

【テーマ4】まちづくりが実現できる場について

「企画・制作・発表・展示」の効率が高まる工夫

●企画：ループ状のメディアウォール

回遊動線に沿って設けたメディアウォールは、多様な掲示・展示機能を有し、まちづくり活動に関する企画情報を効率よく発信します。

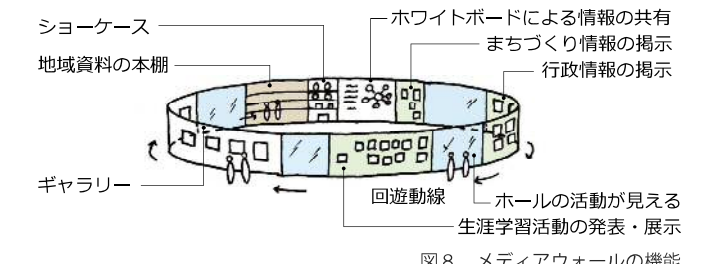


図8 メディアウォールの機能

●制作：まちづくりステーションの設置

まちづくり活動をより活性化するため、北側の多目的スペースに、自由に利用できる「まちづくりステーション」を設けます。

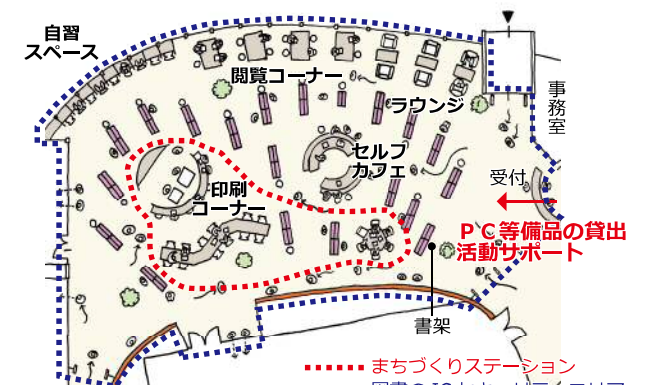


図9 まちづくりステーションの平面図

●発表・展示：ギャラリー空間となる回遊動線

施設の回遊動線はギャラリー空間として利用でき、まちづくりに関する成果品を展示し、効率よく住民に発信します。



図10 回遊動線のギャラリーの様子

【テーマ5】コアゾーン及び役場周辺施設の関係性について
周辺施設との連携が深まるエリアマネジメント

●多様な使い方、人の流れを生み出すコアゾーン

コアゾーンは、周辺の各ゾーンとの連携や人の流れが生まれ、様々な活動が実現でき、誰もが気軽に集える環境とします。

●周辺施設を繋げる緩やかな歩道と7つのエリア

コアゾーンと地域交流ゾーンをまたぐ緩やかな歩道は、ゾーン同士やゾーンと本施設を結び、その間の7つのエリアでさらに連携が深まる計画とします。

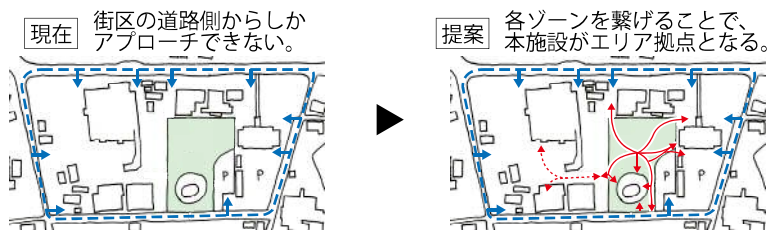


図11 緩やかな歩道の考え方

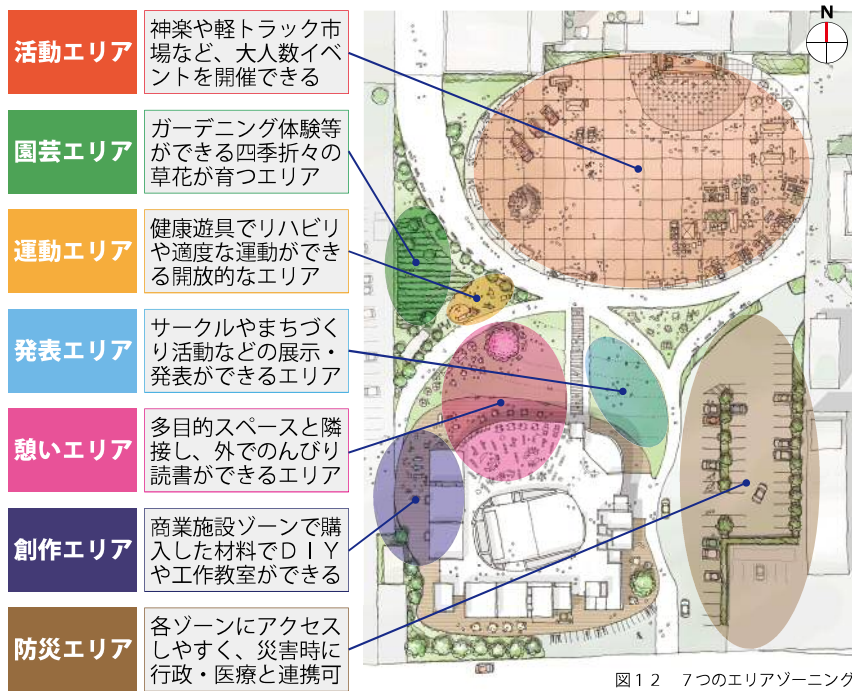


図12 7つのエリアゾーニング

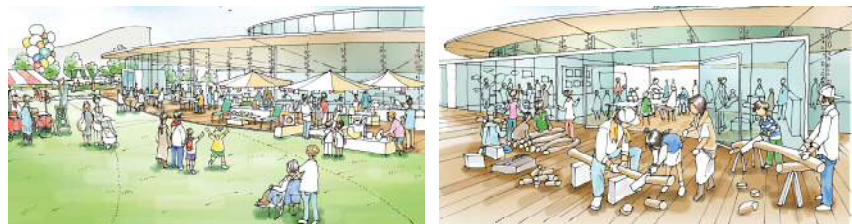


図13 多目的スペースとコアゾーンの一体的な利用

図14 NPO団体主催の間伐材利用イベント



消防車、パトカー、地震体験車による防災ショー

コアゾーンを介して繋がる周辺施設への緩やかな歩道



健康遊具により屋外の開放的な環境での健康づくり



ショッピングセンターからの出張グルメイベント



ホームセンターで購入した資材でDIY教室

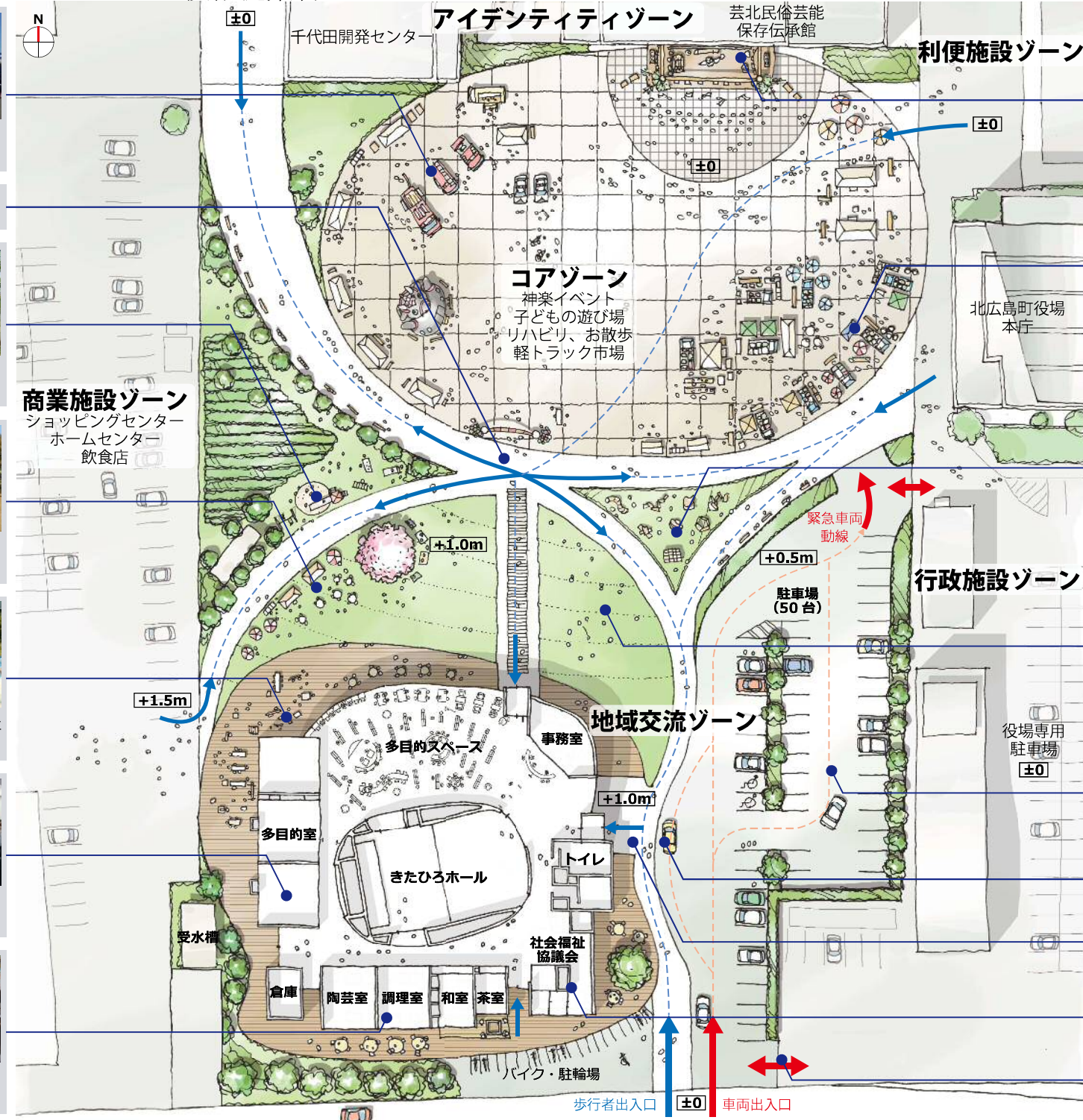


医療施設ゾーンからの出張健康セミナー



ショッピングセンターで購入した食材で料理教室

技術提案書



ステージとコアゾーンが一体となった屋外イベント



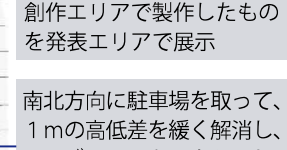
農家から野菜を持ち寄ったの軽トラック市場



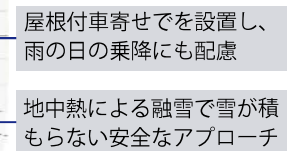
災害時の備えとして、マンホールトイレやかまどベンチを設置



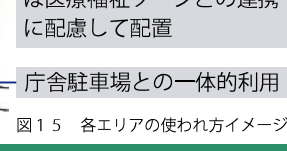
創作エリアで制作したものを発表エリアで展示



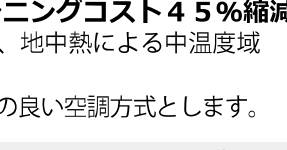
南北方向に駐車場を取って、1mの高差を緩く解消し、コアゾーンにもアクセスしやすく計画



屋根付車寄せでを設置し、雨の日の乗降にも配慮



社会福祉協議会の支所機能は医療福祉ゾーンとの連携に配慮して配置



庁舎駐車場との一体的利用

図15 各エリアの使われ方イメージ

ユニバーサルデザイン・バリアフリー化に関する提案

すべての人が快適に使える施設

●施設利用者に応じたユニバーサルデザイン

職員や学生、家族連れ、観光客など、施設利用者を具体的に想定して使いやすい施設をつくります。

職員	サイン	わかりやすい表現 音声誘導、外国語表記 触知案内サイン
家族連れ	●	全体が把握しやすい建物構成
子ども	●	多目的 オープンスペース、個別机
障がい者	●	廊下 単純化、すれ違いやすい
初めての人	●	● トイレ・案内 わかりやすい位置に配置
観光客	●	● 保育設備 キッズコーナー、授乳室
お年寄り	●	● 内装・外構 段差のない歩きやすい計画
サラリーマン	●	● 駐車場 おもいやり駐車スペース
学生	●	● その他 盲導犬・ローカウンター 自動販売機等の障がい者対応 プライバシー配慮

特に重要なつながら

図16 ユニバーサルデザインの関係性

全体事業費の圧縮に関する提案

長く使われる快適で安心な施設づくり

●自由に使える空間を実現する大スパン

最大15mの大スパン架構に鉄骨を用いることで、季節を問わない建方、安定した材料供給ができ、建設コストを縮減します。

構造種別	コスト	荷重	杭工事	総評
鉄骨造	◎	○	◎	最も安価で施工性が高い
RC造	△	△	△	職人不足、荷重が大きい
木造	○	◎	○	大スパンの大断面集成材コスト大

図17 構造比較

●軽量な上部躯体による地中躯体・杭の縮減

軽量化した上部躯体は、基礎構造を直接基礎+地盤改良とし、杭コストを縮減します。(地盤調査による十分な支持層の確認を行います。)

●規格品、規格寸法の採用による合理化

部材のユニット化や建具サイズを統一することで現場作業を削減し、労務コストを縮減します。

●雪の重さと冷たさに耐える屋根

コンクリートに外断熱+遮熱塗料を施すことで、最大積雪60cmに耐える強度と室内の熱環境を確保します。

●自然採光・自然換気によるエコ環境

季節や気候に応じて、高窓からの暖かい日差しや、温度差による重力換気などを活用したエコな環境とします。

●室に合わせた空調方式と地中熱利用でランニングコスト45%縮減

多目的スペースのような広く開放的な空間には、地中熱による中温度域(15℃)を用いた床輻射冷暖房を採用します。高天井のきたひろホールは壁輻射冷暖房で効率の良い空調方式とします。

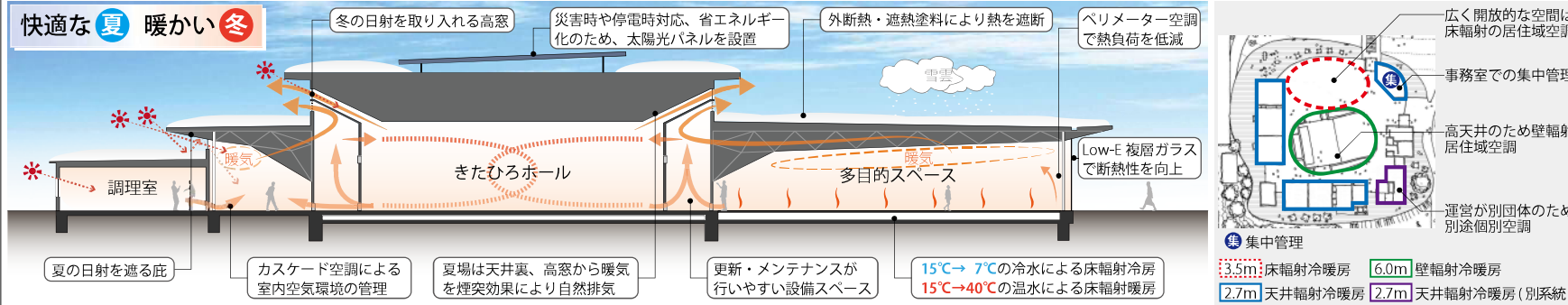


図18 断面構成イメージ

図19 天井高さ別の空調システム図